

藤 沢

エコネット

藤沢環境運動市民連絡会議

(略称) 藤沢エコネット

2017年5月1日

第276号



主
な
記
事

- ・ 藤沢西北部見学会に参加して
- ・ ふくしまっこリフレッシュを終えて
- ・ 広河隆一「人間の戦場」 ・ 放射能測定値
- ・ 気象情報ジェット気流にまつわる話11

<http://econet2015.sakura.ne.jp>

事務局 e-mail: aoyagipc@jcom.home.ne.jp 青柳

☎/FAX 0466-87-4922

諏訪さんを悼む

藤沢エコネット創立者の一人で、副代表だった諏訪謙司さんが桜満開の4月5日に86才で奥様が待つ天国に逝きました。

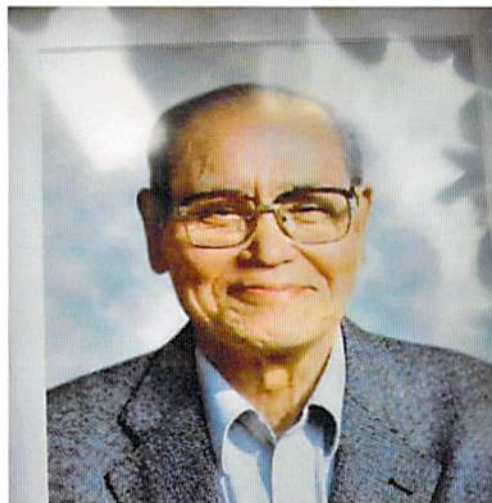
諏訪さんは病床に付してからも病人であるような素振りは一切見せず、時局の問題について熱っぽく語り、自分の意見がないということはありませんでした。どうしてそんなに博学なのか。いつでも勉強していて、たくさんの新聞を読み、雑誌を読み、専門書を熟読していたからです。諏訪さんは知性の塊のような人だったと思います。

晩年、知性と感性、体力を振り絞って闘ったごみ有料化裁判の奮闘を忘れることができません。わたしも3人の原告団の一人として裁判をしましたが、4万数千人の市民の有料化反対署名が議会に出されたにもかかわらず、議会で条例が通ったからと言って、反対運動を止めるわけにはゆかないと裁判闘争を決断、この裁判は勝っても解決金など一銭ももらえない、弁護士をつけても弁護士料は払えない、弁護士をつけずに裁判をやろう、訴状も弁論調書も自分たちで書こうと市民裁判を決断したのが諏訪さんです。

5年間の裁判闘争で、最高裁まで闘いましたが、勝訴することはできませんでした。しかし、最高裁判決は争点をそらして、行政の側を勝たせただけで、実質的には原告が勝った裁判であると原告側は思っています。廃掃法では、ごみは無料で収集しなければならない、地方自治法でも住民一人一人の要請がなければ手数料を取れないのに、戸別収集すれば有料化しても違法とまでは言えないと理屈つけをして、行政を勝たせたのが、最高裁判決だったのです。しかし、市民裁判で最高裁まで闘ったごみ裁判がいつか活かされる日が来るだろうと、裁判記録をホームページ上に載せ、いつでも、だれでも見る事が出来るようにしたのが諏訪さんです。「藤沢ごみ有料化裁判」と検索すればHPが出てきます。諏訪さんの闘った人生の勲章と言っても過言ではありません。

数々の市民運動の重鎮だった諏訪さんを失ってしまった事は大きな痛手ですが、諏訪さんの死を乗り越えて次の世代にバトンを渡してゆくことは残された者の任務です。

(小林麻須男)



諏訪謙司さん

ふくしまっ子 たくさん遊んだよ

「2017 春 ふくしまっこリフレッシュ in 湘南 & こどもの国」は放射能の汚染から少しでも離れて湘南でリフレッシュしていただきたいと保養活動に取り組み、今回 10 回目を行いました。

3 歳から小学生までの子どもたち保護者を含め 36 人を招待、その内、子どもは幼児 7 人、小学生 15 人でした。

春休み、3/29～4/2 の 4 泊 5 日を日本大学で 2 泊し、こどもの国で 2 泊して心身ともにリフレ



けん玉で遊ぶ

ッシュできた様子です。

日本大学では普段食べることがないシカ肉のソーセージ入りのパンを試食、シカの皮を使っ

て各自が絵や文字を書き世界で一つだけの「缶バッヂ」作り、シカと牛の違いやクイズで小林教授の特別講座にみんな満足でした。桜がチラホラでしたが広い敷地の中で日大博物館の見学もできました。動物の骨格やはく製などがあり大学生が優しく説明してくれました。

湘南台にある文化センター子ども館ではプラネタリウムを鑑賞後館内で遊びました。子ども館は人気で、小さい子から小学生まで楽しむことができました。

日本大学をはじめ関係施設には特段の計らいに感謝申し上げます。

こどもの国では雨で寒い一日、室内での凧づくりや工作で、雨の止んだ合間に凧あげで楽しみました。

毎回同じような企画ですがリピーターの家族も多く、自由行動で鎌倉見物や江の島へ出かけた家族もいて湘南が大好きとの感想にやはり観光地ならではの魅力があるようです。

今回は保護者とスタッフでの交流会を行うことができ、子どもたちは隣の部屋で遊び、短時間ではありましたが福島での生活を知ることができました。特に食べ物に気を使っていること、袋に詰めた除染した土が庭に埋めら



小林教授によるシカについての特別授業

れていた校庭の隅に置かれていたり是不安を感じているようでした。神奈川新聞が保護者に寄り添い取材し、3 日連続の記事を載せて下さいました。タウンニュースにも。

感想アンケートには、スケジュールや施設の面で「満足」がほとんどで、今までにない評価をいただきスタッフとしても大変うれしい。頑張ってた！と喜び合いました。

「お友達ができて良かった(子)」「ケン玉毎日するぞー(子)」「大人もリラックスできた(ママ)」「大学生と交流、遊べる時間がもっとあると良かった(ママ)」
「都会でもボランティアとなると高齢になりますね、若い人たちにはなかなか頼めませんね。でも高齢者の生きがいもあるでしょうから未来の子どもたちのために健康に留意されて働かれますように(祖母)」
「藤沢も横浜も鎌倉も湘南大好きな街なので来れるとと



凧あげ

てもうれしいです(ママ)」
「楽しかったです(ママ)」など、

保養では、バス代の高騰により経費がかさみましたが皆さまからの温かいご支援により何とか資金は

達成できました。しかしこれから先は…続けたいとの思いは変わりません。

今年の夏休みの 7 月にも第 11 回目を行う準備中ですが資金面での不安があります。これからもあたたかく支援していただきたいと思います。

ご協力大変ありがとうございました。

(福島子どもたちとともに・湘南の会 荒井)

藤沢西北部見学会に参加して

私たちの税金はどんなふうに使われているの？西北部って何処？ 藤沢に住んで40年近くになるのに駅周辺しか良くわからない。そこで先ず見てみよう、車4台に分乗してのツアーに参加した。藤沢エコネット主催の見学会は3月25日に行われ、講師は柳沢市議員で資料も配られ、穏やかな春が感じられた日だった。

説明では相鉄線が湘南台駅から西へ延伸予定で、駅予定地は車中から眺めた。(本紙273号参照)

慶応大学の北側にある「遠藤笹久保谷戸」は、オオタカのいる緑豊かな森だ。このようなところは大切に守ってほしいと思う。次に「豊受神社」「皇子大神」へ車を止め説明を聞いた。静かでない所と思ったら突然、ゴー～と飛行機が！ 全員見上げる！ あれはナントカ戦闘機、厚木基地方面へ向かって行った。あれも米軍への思いやり予算という税金か？



次に「新産業の森」へ、昔は豊かな森や畑であったであろう土地が、だだっ広い、草の生い茂る空き地になっていた。一部の区画には倉庫のような建物が数棟、何に使うか分からないがポツポツ。それにしても道路だけは信号のある立派な道路だった。これは誰のための開発？ 大企業向けの「大もうけ」の開発ではないのか？

「北部区画整理2-3地区」はいすゞ自動車の工場周辺、減歩の事やいつ終わるのか市からの予算がたくさんつぎ込まれることなどの説明を聞き、開発とは住民のためではないのか？の疑問も感じた。

やはり税金は住民のために正しく使ってほしい。

2時間ほどのツアーだったが税金をもっと大切に使うって欲しいと思った見学だった。(渡辺玉子)

〈藤沢エコネットニュース276号〉

広河隆一「人間の戦場」

ドキュメンタリー映画「人間の戦場」と広河隆一さんの講演を聞く会に参加、会場は300席ほどのホールがいっぱい、予約なしでも入場ができたと思ったらキャンセル待ちで幸い入場できた。それほどフォトジャーナリスト広河さんは人気だ。月刊誌「DAYS Japan」の編集長をされ今は引退、数々の賞も受賞されている。

イスラエルとパレスティナの戦場を訪ね「人間の生きたあかし」を記録したいという思いで危険な場所へ出向いた。

チェルノブイリ、ウクライナ、ベラルーシでは、そこに生きる人々をカメラの目で捉える映像は目に焼きつく。

講演では、福島で3.11の時、何をしていたか？ の質問に、ただうろたえていたと答えた人々。危機感を感じていたのは原発企業と政府で、どうしていいのか？の状態、世論の口封じに動いた。

福島での原発事故による甲状腺検査にも触れ、4歳児に甲状腺がんが見つかり大変なことだ。当時0歳はエコー検査できないので検査をしていない。発表の数を少なくするための操作もしている。

日本のメディアはどう伝えたか⇒「家にいなさい」と伝えた。放射能は全国に広がっていて1ヶ所も汚染されていないところはないという。

何度も現地を訪れた広河さん、福島情報を伝えたい思いが話の中で感じられた。いち早く逃げたい人々、情報のない中うろたえる人、渋滞に巻き込まれる人、水や品不足などの話。

チェルノブイリ原発事故では、5km圏内に対策委員会が20分後に設けられ、逃げる体制づくりや軍も市も病院もよく把握し体制をとった。

日本のように原発がたくさんある国は、ヨウ素剤を準備しておくほうが良いとも。

広河さんは沖縄の久米島に「沖縄・球美の里」という保養施設を作り、年間を通じて福島の子どもたちに無料で保養の機会を与えている。広い浜辺で無邪気に遊ぶ子どもたち、近所や支援者から食事の材料差し入れもありよい場所だ。



(日比遥)

ジェット気流発見にまつわる話

(シリーズ11 風船爆弾作戦)

はたして、日本軍は大石が世界に先んじて実態を明らかにした強い西風を利用し、1944年11月から1945年4月までの短い期間に約9000個の風船爆弾を北米大陸へ向けて放球した。この季節を過ぎて春になると、放球した風船が移動性高気圧や低気圧の周辺の気流に取り込まれ経路を定めることができない。戦争参加国以外の地域へ到達することは避けなければならない。もともとこの作戦は、4月中旬以降の季節では成立しない作戦だった。

風船爆弾の典型的な飛行軌跡をみると、いわゆるジェット気流の流れに乗って、バラストを微妙なタイミングで落下させながら3日間で北米大陸へ到達する(前回の図参照)。短い期間に約9000個が放球されたうち、北米大陸に到達した風船爆弾の数は、アメリカとカナダを合わせると約300個、すなわち放球した数の僅か3%であった。

風船爆弾は、日本が第2次世界大戦に敗北する過程の最後の冬に計画された、断末魔の作戦であったといえよう。とにかく「風船」を使った襲撃なので、この名称を使った爆弾作戦を知った当初は、急ごしらえの計画で、せいぜい一日に一個程度の風船を放球する作戦と思われるかも知れない(少なくとも始め私はそう思った)。しかしその実態は、極めて綿密に計画され、大量の人員と資金・物資を投入した大規模な作戦だったのである。

林 陽生(NPOシティ・ウォッチ・スクエア理事長)

ECONET INFORMATION

映画「日本と再生」

脱原発弁護士、河合弘之監督の最新作

日時 5月21日(日)

①10:30-上映 12:10-監督のトーク

②14:00-監督のトーク 14:30-上映

場所 藤沢商工会館ミナパーク6Fホール

前売券・予約 ¥1000 当日 ¥1200

問い合わせ・予約 ☎090-1425-5472(吉野)

メール fujisawasunenergy@gmail.com

主催 (一社)ふじさわサンエナジー

原発事故で生きものたちに何がおこったか

6/3(土)13:30-16:30 参加費 ¥1000

日比谷図書文化館地下大ホール

講師 永幡嘉之氏 報告 大石恵子氏

主催 レイチェル・カーゾン日本協会関東フォーラム

申込先 ☎fax 04-7184-5795 島藤

藤沢エコネットから

◆藤沢エコネット学習会&総会

「博物館は必要ですか？」

藤沢の自然環境保全から考える」

講師:大谷房江さん(神奈川県自然保護協会理事)

5月20日(土)10:00~ 藤沢市総合図書館

申し込み連絡先:080-5099-4264 へ

◆会員募集=年会費・購読料→2000円

ゆうちょ銀行 (9900) 店番 (029)

当座預金 0046501 7971131

◆事務局会議 5月6日(土)10:00~

市民活動推進センター

放射能測定値(市民計測)

(HORIBA Radi) 単位($\mu\text{Sv/h}$)

測定日4月3日

市役所新館1Fエレベータ前 0.054

市役所新館7Fエレベータ前 0.085

産業センター6Fエレベーター前 0.060

森谷ビル教育委員会1Fエレベーター前

0.085

《編集後記》5月3日は1947年に憲法が施行された日。「政府の行為によって再び戦争の惨禍が起こることのないようにすることを決意」してから70年。その次の年1948年にコスタリカは軍隊を廃止し、軍事予算を社会福祉にあて、無料の教育、医療を実現し環境を良くし、その結果「地球幸福度指数(HPI)」2016年世界140カ国中世界一に輝いた。映画「コスタリカの軌跡~積極的平和国家のつくり方」が6月公開される。(A)